



## 「僕の一生懸命」

### 滋賀県立日野高等学校 一年 藤崎 諒



私の高校生活のほとんどは、部活が占めています。野球部の私の一日の過ごし方は次のようなものです。朝から六時間授業です。野球で帰りが遅くなるので家で勉強する時間がありません。だから授業に集中します。四時から練習が始まります。アップ、キャッチボール、ペッパー、マシンフリー、マシンシート、ノック、筋肉トレーニング、ダウンのメニューをやりまます。練習後グラウンド整備など、全てが終わるのが九時過ぎです。試合が近くなるとその後、自習練習で、ティーやゲージで打ち込みます。守備では、自分たちでノックを打っています。だいたい十時前に終わらせて、十一時過ぎに自転車で帰宅します。このような生活を毎日送っています。休みは一週間に一回でほとんどありません。私がこの生活を続けている理由はたくさんあります。

一つめは、公式戦で勝ちたいからです。今の三年生は公式戦で一回目も勝つことができませんでした。私は、大切な夏の試合に出場させてもらいました。しかしその試合は負けました。三年生は、そこで引退です。三年生のみなさんは、泣いていました。ほんとうに、私達下級生は申し

訳ない気持ちでいっぱいでした。私は、先輩達の分まで「公式戦で勝つ」を目標に辛くても精一杯がんばろうと思っています。

二つめは、試合で活躍したいからです。先輩達が引退して自分たちの代になった今、結果を残したいと強く思うようになりました。全体練習が終わった後の自主練習で。悪い所を仲間に指導してもらいながら、自分の苦手なところを克服していきます。だんだん成長していくのが自分でもわかり、試合で結果を出せた時の喜びは、何にも代え難いです。

三つめは、憧れがあるからです。ぼくは、小さいときから、野球をしていました。テレビを見ると、阪神の赤星選手が映っていました。赤星選手は、体が小さいとプロでやっていくのは絶対無理、という考え方をひっくり返したい、体が小さくて悔しい思いをしている選手達の代表として、体が小さくてもやれる人間はいるんだということをみんなに知らせたいと言っていました。私は、その言葉から、体型等関係なく。気持ちがあつたらできるということを教えてもらいました。私はそんな赤星選手に憧れ、目標としています。

四つめは、チームメイトとのつながりがあるからです。野球は九人でするスポーツです。チームメイトと仲が悪いと野球はできません。私達はコミュニケーションを取ることだんだん成長していきます。冬になると、辛い練習ばかりでだらけてしまいます。しかし、チームメイトと

コミュニケーションをとるだけで、辛さを忘れ楽しくなっていきます。コミュニケーションをとることで試合でも声をだせるようになります。チームメイトは、私にとって、本当になくはない大切な存在です。

今、私は一人では始めることができません。一生懸命働いた親のお金を私の、グローブ、バット、スパイク、ユニホームなどのために使ってもらったり、母には、朝早くからお弁当を作ってもらったり、土日の、休みには、試合の応援にきてもらいました。地域の人たちに声をかけていただき、先生たちには、忙しい中、指導をしていただいています。日野高校の野球部に入る前に、心に決めたことは弱音をはかないということです。私は、辛い練習などをやっているときに、すぐに弱音をはいてしまいます。すると、チーム全体の雰囲気が悪くなります。だから、これから、どんな困難も乗り越えて、弱音をはきません。これから長い人生の中で、ここまでハードに体を動かすことはもうないかもしれません。こんなにも一つのことに熱中することも今だけかもしれません。だからこそ、今どんなに疲れても頑張りたいという思いが強いです。そして、何かに一生懸命になれる事に幸せを感じます。世の中には、目標がなく、ただ生きて一日を過ごしている人がいると思います。それに、比べたら私は、同じ目標をもった仲間がいて、目標に向かって毎日いろいろな経験ができることに感謝したいと思います。

